軽防協ニュース速報

2023 年第 1 四半期(1 月-3 月)の伝染病発生状況

2023 年 5 月配信

(International Collating Centre からの情報)

この記事は、2023 年第 1 四半期（1 月-3 月）の各国の伝染病発生状況の要約したものである。また、ICC 暫定（リアルタイム）のレポートでは報告されていなかった疾病発生状況の追加情報が寄せられていることにも留意されたい。この追加情報は、本レポートの表と本文の該当する箇所に*印または#印を付して示されている。ICC 暫定（リアルタイム）のレポートは、equinesurveillance@gmail.com から受信登録を行うことで e-mail による受信が可能となる。また、https://equinesurveillance.org/iccview のページ内にも、同内容のレポートや最新の流行状況が掲載されている。

このレポートに示されているデータには、各国の研究所での検査サンプルや、報告方法に多少のバイアスがあるかもしれないため注意して解釈していただきたい。そのため、これらのデータが必ずしも世界各地における馬の集団内での伝染病発生率を的確に反映しているわけではないことをご了承願いたい。例えば、ある伝染病について発生報告がないからといって、必ずしもその伝染病がその国の中で存在していないということではない。以下の各表は国によって報告された病気の発生件数をまとめたものである。1 件の発生で複数症例を含むものがある。

繁殖疾患

発生国	CEM	EHV-1	EHV-4	S.zoo
ベルギー	-	4	2	1
フランス	-	9	-	1
ドイツ	3	1	-	-
日本	-	#6	-	-
オランダ	-	2	-	-
スイス	-	1	-	-
連邦王国	-	7	-	-
米国	-	1	-	-

#四半期末に報告があった追加情報

馬伝染性子宮炎（CEM）による流産

ドイツ

3 件の発生が報告された。バイエルン州とニーダーザクセン州で 2 件の単独発症を認め、シュレスヴィヒ・ホルシュタイン州で 3 頭の発生を認めた。陽性診断は生殖器スワブを用いた PCR 検査によって行われた。

馬ヘルペスウイルス１型（EHV-1）による流産

ベルギー

アントウェルペン州および西フランダース州で EHV-1 による流産の単発症例の発生が 4 件報告された。罹患した馬の 2 頭はワクチン接種を受けていた。1 頭はさらに EHV-4 の同時感染も認められた。陽性診断は胎子組織を用いた PCR 検査にて行われた。

フランス

カルヴァドス県、ロワールアトランティック県、マンシュ県、オアーズ県およびオルヌ県で 9 件の EHV-1 による流産が発生し、それぞれは単独発症であった。罹患した馬の 5 頭はワクチン接種を受けていた。陽性診断は 8 例が胎子組織を用いた PCR 検査によって行われ、1 例が子宮スワブを用いた PCR 検査によって行われた。

ドイツ

ザクセン州の施設のワクチン接種済みのサラブレッド雌馬で、EHV-1 による流産が 1 例報告された。陽性診断は、胎子組織と悪露を採取したスワブを用いた PCR によって確認された。

日本

#ワクチン接種済みのサラブレッドにおける EHV-1 による流産が 6 例報告された。それぞれの発生は単独発症であった。LAMP 法によって陽性を確認した。

オランダ

EHV-1 による流産が 2 件報告された。ヘルデルラント州で、補強ワクチン接種時期をすぎた馬において 3 頭発生した。また、リンブルフ州でワクチン未接種の馬 1 頭が発生した。陽性診断は、胎子の肺生検と膣スワブを用いた PCR によって確認された。

スイス

ベルン州の施設で EHV-1 による流産が 1 件報告された。PCR により陽性を確認した。

イギリス

EHV-1 による流産が 7 件報告された。7 件中 5 件はイーストサセックス州、ランカシャー州、リンカンシャー州、ノースヨークシャー州の施設における単独発症であった。ノーフォーク州では 2 頭、サフォーク州では 4 頭の発生を認めた。感染した馬のうち 5 頭はワクチン接種済みであった。陽性診断は胎子組織を用いた PCR 検査にて行われた。

アメリカ

アイダホ州の施設においてワクチン接種済みの馬に、EHV-1 による流産が 1 頭発生した。さらに同施設内にいる他の数頭の牝馬が虚弱子馬の出産や、予期せぬ妊娠喪失を起こしたが、確定診断は行われなかった。

馬ヘルペスウイルス 4 型（EHV-4）による流産

ベルギー

EHV-4 による流産が 2 件発生し、それぞれ単独発症であった。アントウェルペン州で発生した 1 頭は、EHV-1 が同時感染しているワクチン未接種の牝馬であり(EHV-1 よりも EHV-4 が高いウイルス量で検出された)、西フランダース州の施設で発生した 1 頭はワクチン接種済みの牝馬であった。陽性診断は胎子組織を用いた PCR 検査にて行われた。

***S.zooepidemicus* による流産**

ベルギー

リュクサンブール州の施設で *S. zooepidemicus* による流産が 1 例報告された。陽性診断は胎子組織を用いた PCR 検査にて行われた。

フランス

S. zooepidemicus による流産が 1 例、オルヌ県の施設の 4 歳サラブレッド牝馬で報告された。陽性診断は胎子組織を用いた PCR 検査にて行われた。

呼吸器疾患

発生国	EHV	EHV-1	EHV-1/-4	EHV-2/-5	EHV-4	EHV-4/腺疫	EI	ロドコッカス	腺疫
アルゼンチン	-	-	-	-	#1	-	-	-	-
オーストリア	-	1	-	-	-		-	-	-
ベルギー	-	2	-	2	3		#3	-	4
カナダ	-	-	-	-	-		-	-	5
フランス	-	8	2	-	9	1	20	-	20
ドイツ	-	1	-	-	-		-		-
オランダ	-	3	-	-	4		1	-	8
南アフリカ	-	#3	-	-	#1	-	-	-	-
スイス	-	2	-	-	3	-	-	1	5
イギリス	-	2	-	-	5		3	-	-
アメリカ	1	-	-	-	-		1	-	30

#四半期末に報告があった追加情報

馬ヘルペスウイルス呼吸器感染症

アメリカ

ペンシルバニア州で 1 例報告された。

馬ヘルペスウイルス 1 型（EHV-1）による呼吸器感染症

オーストリア

スペインのオリバで開催されたショージャンピングイベントからオーストリアに帰国した 8 頭のうち 1 頭が感染したことが報告された。他の 7 頭は臨床症状を示さず、EHV 検査も陰性であった。

ベルギー

2 件の発生が報告された。うち 1 件は、東フランダース州の EHV-2 の同時感染を伴う 1 頭で、もう 1 件はフラームス・ブラバント州で 1 頭の感染を認めた。鼻腔スワブを用いた PCR 検査にて陽性を確認した。

フランス

8 件の発生が報告された。うち 7 件はブーシュデュローヌ県、カルヴァドス県、マンシュ県、ローヌ県、ソンム県およびイヴリーヌ県で単独発症であり、1 件はマンシュ県で 2 頭の発生を認めた。鼻咽頭スワブを用いた PCR 検査にて陽性を確認した。

ドイツ

ニーダーザクセン州で、2 歳の牝馬 1 例が報告された。鼻腔スワブを用いた PCR 検査にて陽性を確認した。

オランダ

3 件の発生が報告された。1 件は北ブラバント州で、6 頭の発症を認め、リンブルフ州ではスペインの大会から帰国したワクチン未接種の馬 2 頭の発症を認め、さらに北ブラバント州では単独発症を認めた。臨床症状は発熱、鼻汁、発咳などで、鼻咽頭スワブを用いた PCR で陽性を確認した。

南アフリカ

[#]3 件の発生が報告された。2 件は北ケープ州とムプマランガ州での単独症例で、もう 1 件はハウテン州で、2 頭の発生を認めた。

スイス

チューリッヒ州で 2 件の報告を認め、異なる施設での単独症例であった。臨床症状として発熱を認め、PCR で陽性を確認した。

イギリス

2 件の発生が報告された。デボン州とグロスターシャー州で 1 件ずつ発生した。グロスターシャー州の 1 頭は *S. Zooepidemicus* が同時感染し、さらに重度の肝疾患を発症していた牡のロバであった。この症例では、運動失調と後肢麻痺の神経学的兆候を認めたが、EHV-1 感染によるものではなく、肝性脳症に起因するものであった。

馬ヘルペスウイルス 2 型および 5 型（EHV-2,-5）による呼吸器感染

ベルギー

EHV-2 および EHV-5 の呼吸器感染症が 2 件報告され、それぞれ東フランダース州とエノー州で単独発症を認めた。臨床症状は発咳、鼻汁、リンパ節腫脹が認められた。鼻腔スワブを用いた PCR 検査にて陽性を確認した。

馬ヘルペスウイルス 4 型（EHV-4）による呼吸器感染症

アルゼンチン

[#]サンタフェ州で 1 件報告された。この報告では、ワクチン接種済みの種牡馬と子馬の計 25 頭が発症した。血清学的診断、病原体分離、PCR により陽性を確認した。

ベルギー

3 件の発生が報告された。アントウェルペン州、東フランダース州およびフラームス・ブラバント州で発生し、それぞれ単独発症であった。臨床症状は食欲不振と発熱が認められた。鼻腔スワブを用いた PCR 検査にて陽性を確認した。

フランス

9 件の発生が報告された。うち 8 件は、カルヴァドス県、コートドール県、イルエビレーヌ県、マンシュ県およびモルビアン県で発生した単独発症であった。他の 1 件はコートドール県で 2 頭の発症を認めた。臨床症状は、発咳、鼻汁、発熱、リンパ節腫脹が認められた。鼻咽頭スワブを用いた PCR で陽性を確認した。

オランダ

ドレンデ州、ヘンデルラント州、フローニンゲン州およびリンブルフ州でそれぞれ単独発症が報告された。臨床症状は発咳、沈鬱、発熱、鼻汁、体重減少などを認めた。鼻咽頭スワブを用いた PCR で陽性を確認した。

南アフリカ

[#]ムプマランガ州で 1 件の発生が報告された。

スイス

アールガウ州およびヴォー州で 3 件の発生が報告された。それぞれ単独発症であった。臨床症状は発熱と呼吸器症状を認めた。PCR で陽性を確認した。

イギリス

5 件の発生が報告された。うち 4 件は、バッキンガムシャー州、フォルカーク州、ウェストヨークシャー州、スコティッシュボーダーズ州で、単独発症を認めた。残り 1 件は、スコティッシュボーダーズ州の別施設における 2 頭の発生であった。このうち 1 頭は S. zooepidemicus を併発した。臨床症状は激しい乾性咳嗽、食欲不振、沈鬱、リンパ節腫脹、粘液性鼻漏、発熱、眼脂が認められた。鼻咽頭スワブを用いた PCR で陽性を確認した。

馬ヘルペスウイルス 4 型と腺疫の同時感染

フランス

オートソーヌ県で EHV4 と腺疫の併発が 1 件報告された。臨床症状は発咳、リンパ節腫脹、鼻汁、発熱が認められた。鼻咽頭スワブを用いた PCR で陽性を確認した。

馬インフルエンザ（EI）

ベルギー

エノー州、東フランダース州およびリュクサンブール州で 3 件の発生が報告され、それぞれ単独発症であった。臨床症状は発咳、鼻汁、発熱が認められた。鼻腔スワブを用いた PCR で陽性を確認した。

フランス

20 件の発生が報告された。うち 16 件は、アン県、カルヴァドス県、ロワレ県、マンシュ県、オルヌ県、ピレネー・オリアンタル県、サルト県、セーヌ・エ・マルヌ県およびイヴリーヌ県での単独発症であった。1 件はエロ―県での 2 頭の発生、もう 1 件はメーヌ・エ・ローワル県での 4 頭の発生、2 件はカルヴァドス県とヴァル・ド・マルヌ県での 5 頭の発生を認めた。臨床症状は発咳、リンパ節腫脹、鼻汁、発熱を認めた。鼻咽頭スワブを用いた PCR で陽性を確認した。

オランダ

オーファーアイセル州で 1 件の発生が報告された。臨床症状は発咳、リンパ節腫脹、鼻汁、発熱を認めた。鼻咽頭スワブを用いた PCR で陽性を確認した。

イギリス

フォルカーク州、ケント州、ランカシャー州でワクチン未接種の馬の単独発症を 3 件認めた。臨床症状は発咳、食欲不振、鼻汁、発熱、呼吸数の増加を認めた。鼻咽頭スワブを用いた PCR で陽性を確認した。

アメリカ

ワシントン州で 1 例報告された。

ロドコッカス・エクイ

スイス

チューリッヒ州で 1 例報告された。臨床症状は発熱と呼吸器症状であった。

腺疫

ベルギー

フラームス・ブラバント州、リエージュ州およびリンブルフ州で 4 件の単独発症を認めた。臨床症状は、発咳、リンパ節膿瘍、鼻汁、発熱であった。鼻腔スワブと鼻咽頭スワブを用いた PCR で陽性を確認した。

カナダ

オンタリオ州のすべて異なる施設で 5 件の単独発症を認めた。臨床症状は、鼻汁、発熱、下顎リンパ節腫脹を認めた。このうち 3 件は PCR で陽性を確認した。

フランス

20 件の発生が報告された。16 件はアン県、カルヴァドス県、コートドール県、ドルドーニュ県、オートアルプ県、オートソーヌ県、アンドル・エ・ロワール県、イゼール県、ピレネー・アトランティック県、ローヌ県およびピュイ・ド・ドーム県で発生した単独発症であった。その他 2 件はヴァール県、モルビアン県でそれぞれ 2 例、1 件はフィニステ

ール県で 4 例、1 件はローヌ県で 5 例の発生であった。臨床症状は膿瘍、発咳、衰弱、リンパ節腫脹、鼻汁、発熱などを認めた。鼻咽頭スワブを用いた PCR で陽性を確認した。

オランダ

ドレンテ州、ヘルデルラント州、リンブルフ州、ノールトブラバント州、ノールトホラント州、オーファーアイセル州およびゼーラント州で、8 件の発生が報告された。すべて単独症例であり、多くはワクチン未接種であった。臨床症状は、発咳、鼻汁、発熱、喘鳴、膿瘍の自壊、下顎リンパ節腫脹などを認めた。鼻咽頭スワブおよび膿瘍スワブを用いた PCR で陽性を確認した。

スイス

5 件の発生が報告された。そのうち 4 件はベルン州、フィルブール州、ヌーシャテル州、ヴァレー州での単独発症であった。アールガウ州では数頭の馬が感染を認めた。臨床症状は発熱、呼吸器症状、顎下膿瘍を認めた。ほとんどの例では PCR で陽性を確認した。

アメリカ

30 件の発生が報告された。うち 26 件はフロリダ州、ケンタッキー州、ミシガン州、ワシントン州、ウィスコンシン州での単独発症であった。その他 3 件は、フロリダ州とウィスコンシン州で 2 例の発生であり、残りの 1 件はコロラド州での 3 例の発生であった。臨床症状としては、両側喉嚢蓄膿症、疝痛、抑うつ、呼吸困難、食欲不振、沈鬱、リンパ節腫脹、リンパ節膿瘍および自壊、発熱、鼻汁、呼吸器症状、呼吸困難、喉部の触診に対する過敏、体重減少を認めた。

消化器疾患

発生国	クロストリジウム腸炎	馬コロナウイルス
フランス	-	1
スイス	1	2

[#]四半期末後に報告があったもの

クロストリジウム腸炎

スイス

ソロトゥルン州で 1 例報告された。臨床症状として下痢が認められた。*Clostridium perfringens* の培養により陽性と診断され、PCR でα毒素陽性であった。

馬コロナウイルス

フランス

オート・ガロンヌ県で 1 件報告された。臨床症状は下痢、衰弱、貧血が認められた。直腸スワブを用いた PCR で陽性を確認した。

スイス

アールガウ州およびベルン州で 2 件の発生が報告された。臨床症状としては下痢と発熱を認めた。1 件は病原体検出（方法未記載）により、もう 1 件は PCR により陽性を確認した。

神経疾患

発生国	EEE	EEV	EHV-1	破傷風	WNV
ベルギー	-		3	-	-
カナダ	-		2	-	-
フランス	-		1	-	-
ドイツ	-		1	-	1
日本	-		-	#1	-
リビア	-		-	-	1
南アフリカ	-	#1	-	-	#2
スペイン	-		1	-	-
イギリス	-		1	-	-
アメリカ	1		19	-	1

#四半期末後に報告があったもの

東部馬脳炎（EEE）

アメリカ

フロリダ州とサウスカロライナ州の別々の施設で、3 件の単独発症が報告された。臨床症状は、急性発症の神経症状、嚥下障害、後肢の脱力、運動不足、協調不全、無気力などを認めた。

ウマ脳症ウイルス（EEV）

南アフリカ

#ウマ脳症ウイルスは、南アフリカの風土病であり、以下の症例が報告された。
東ケープ州（2 例）、ハウテン州（40 例）、クワズールナタール州（15 例）、ムプマランガ州（8 例）、北ケープ州（5 例）、北西州（3 例）、西ケープ州（1 例）、リンポポ州（9 例）。

馬ヘルペスウイルス 1 型（EHV-1）による神経疾患

ベルギー

3 件の発生が報告された。リエージュ州とリール州における 2 件の発生は、オフラブベークとリールのイベントから戻ってきた馬による単独発症であった。3 件目はフラームス・ブラバント州で、数頭が発症した。臨床症状は運動失調、麻痺、膀胱麻痺、発熱、神経症状、硬直歩様を認めた。鼻咽頭スワブを用いた PCR と血清学的検査で陽性を確認した。

カナダ

オンタリオ州において、2 件別々の施設で単独発症が報告された。臨床症状は運動失調、協調不全を認めた。

フランス

ドローム県で 1 件、4 頭の発生が報告された。臨床症状は運動失調、皮膚潰瘍を認めた。鼻咽頭スワブを用いた PCR で陽性を確認した。

ドイツ

ドイツとスイスの国境付近で数頭の馬による発生が報告された。臨床症状は発熱と中枢神経系の徴候を認めた。鼻腔スワブを用いた PCR で陽性を確認した。

スペイン

オリバで開催された春の地中海ショージャンピングツアーで 1 件の発生が報告された。7 頭の馬が同じエリアに入厩し、発熱を起こしたため直ちに隔離され、さらに接触した 3 頭の馬も隔離された。すべての馬から鼻咽頭スワブを採取し、4 頭が PCR により陽性と判定された。最新情報では、発症馬の厩舎エリアからさらに 9 頭が、数日間の発熱後、動物病院に入院したことが報告された。このうち 8 頭はその後神経症状を呈し、6 頭が陽性と判定された。

イギリス

サフォーク州でワクチン未接種の馬 1 例の発生が報告された。臨床症状は発熱、軽度の鼻汁、旋回時に転倒を認める後肢の運動失調、軽度の顔面神経麻痺などを認めた。血液検体の CF テストにより陽性を確認した。

アメリカ

19 件の発生が報告された。16 件はアリゾナ州、カリフォルニア州、コロラド州、フロリダ州、マサチューセッツ州、ミネソタ州、テキサス州、バージニア州における単独発症であった。他の 3 件は、コロラド州とカリフォルニア州各 2 頭、バージニア州 3 頭であった。臨床症状は運動失調、食欲不振、起立困難、仰臥、発熱、頸椎触診時の反応、尿失禁、脱力などが認められた。

破傷風

日本

[#]ワクチン未接種のサラブレッドで 1 頭の発症を認めた。臨床症状は四肢の硬直と激しい発汗が認められ、安楽死となった。

ウエストナイルウイルス（WNV）

ドイツ

ザクセン州において、1 例の発生が報告された。罹患馬は安楽死となった。

リビア

ジャンズールにおいて 2 例の発生が 1 件報告された。

南アフリカ

[#]ハウテン州と東ケープ州で単独発症が 2 件報告された。

アメリカ

フロリダ州で 1 例報告された。臨床症状は発熱、食欲不振、嗜眠を認めた。

その他の疾患

発生国	AHS	EIA	鼻疽	ピロプラズマ症
カナダ	-	1	-	-
ハンガリー	-	1	-	-
イタリア	-	1	-	-
ロシア	-	-	1	-
南アフリカ	[#]9	-	-	[#]1
スイス	-	-	-	1
アメリカ	-	15	-	-
ウルグアイ	-	1	-	-

[#]四半期末後に報告があったもの

アフリカ馬疫（*AHS*）

南アフリカ

[#]アフリカ馬疫（AHS）は、西ケープ州の AHS 管理地域を除き、南アフリカでは風土病である。9 つの州すべてから症例が報告されたが、1 症例は AHS 管理地域外の西ケープ州の南東部州境で発生した。その他の州では、以下のように症例が報告されている。 東ケープ州（6 例）、フリーステート州（6 例）、ハウテン州（66 例）、クワズールナタール州（16 例）、ムプマランガ州（5 例）、北ケープ州（2 例）、北西州（12 例）、リンポポ州（11 例）。

馬伝染性貧血（EIA）

カナダ

アルバータ州で 1 例報告された。輸出前の検査で陽性と診断された。

ハンガリー

フェイエール郡において 1 例報告された。ELISA により陽性を確認した。

イタリア

トリノで 1 例報告された。

アメリカ

15 件の発生が報告された。11 件はアリゾナ州、カリフォルニア州、ノースカロライナ州、テキサス州、オクラホマ州で単独発症を認めた。1 件はノースカロライナ州で 2 例、もう 1 件はノースカロライナ州で 5 例、その他 2 件はノースカロライナ州とテキサス州で 7 例であった。

ウルグアイ

サルトで 2 例の発生が 1 件報告された。ゲル内沈降反応（Coggins Test）により陽性と確認した。

鼻疽

ロシア

ザバイカリスクで、6 頭のワクチン未接種の馬での発生が 1 件報告された。罹患した馬はすべて死亡するか、安楽死となった。細菌培養によって陽性が確認された。

馬ピロプラズマ症

南アフリカ

[#]ピロプラズマ症は南アフリカの風土病であり、9 州中 8 州から症例が報告された。*B. caballi* の症例は以下のように報告されている。

ハウテン州（5 例）、クワズール州（1 例）、ムプマランガ州（2 例）、北ケープ州（2 例）。

T. equi の症例は以下のように報告されている。

東ケープ州（8 例）、ハウテン州（58 例）、クワズールナタール州（9 例）、ムプマランガ州（14 例）、北ケープ州（9 例）、北西州（6 例）、西ケープ州（12 例）、リンポポ州（4 例）。

スイス

チューリッヒ州で 1 例報告された。抗体検出により陽性と確認した。